

めでいかすとり
Médicastre



「月山満月」

鶴岡地区医師会

30年 8月号

期日：平成30年6月23日(土)
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

山形県病院協議会リハビリテーション専門部会シンポジウム 開催のご報告

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院
院長 武田 憲夫

先の本紙（めでいかすとる）2018年5月15日号に、当院の主催で、山形県病院協議会「リハビリテーション専門部会」のシンポジウム開催のご案内をさせていただきました。そして、去る6月23日(土)13:30~17:30、鶴岡地区医師会館講堂で、「地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーションの役割と問題点」というテーマで、県内各地域のリハビリテーションスタッフ、病院、施設のご協力のもと、シンポジウムが開催されました。予想を上回る91名（医師2名、看護師7名、療法士79名、事務系他3名）にご参加いただきました。この様な多職種連携の会で医師の参加が少ないことは残念でしたが、基調講演、シンポジストのご発表をお聞きし、その後参会者との熱い議論が交わされました。会の次第は下記のとおりです。



○基調講演（座長：武田 憲夫）

講師 土井 勝幸氏（宮城県 介護老人保健施設せんだんの丘 施設長）

○シンポジウム（座長：佐藤 健一氏）

シンポジスト

松木 信 氏（村山地区 老人保健施設木の実）

寺崎 聡 氏（村山地区 みゆき会病院）

荒井 晋一氏（置賜地区 老人保健施設リバーヒル長井）

高山 悠二氏（最上地区 最上町立最上病院）

今野 学 氏（庄内地区 老人保健施設明日葉）

佐藤 健一氏（庄内地区 鶴岡地区医師会 訪問看護ステーションハローナース）

各シンポジストのご発表の後、鶴岡地区医師会佐藤健一氏の司会のもと、約1時間にわたり、様々な議論が交わされました。

基調講演の土井勝幸氏は宮城県の介護老人保健施設せんだんの丘施設長で、現在全国デイケア協会理事、元日本作業療法士協会副会長などの要職を務められ、深い見識、力強い行動力、お人柄の良さなどから各方面でご活躍の作業療法士です。この度は、「介護保険制度改定と医療介護連携」という副題でご講演いただきました。医療と介護、介護保険制度の運用と現状など、私（達？）には比較的疎い部分の詳細な説明と現状分析をご講演いただき大変勉強になりました。また、「人、

物、金の効率化」「職員が辞めない職場の確立」など組織の運用における私にとって納得のいくノウハウも聞くことができました。

シンポジウムジストの皆様、予め共通質問として、「病院への要望を講演に入れて欲しい」と伝えていました。それに関する回答の一部を紹介しますと、老人保健施設木の実 松木氏は、山形県作業療法士会の会長を務められ、“うんちく”のある話を聞かせていただきました。中でも、「退院後の、患者の社会参加を視野に入れた退院支援を行って欲しい」また、「患者さんにとって、自宅玄関から出入りできる、自宅で入浴できることはいずれもとても重要な事で、病院リハビリテーションに際し、このことが叶えられるよう努力して欲しい」などの要望をいただきました。患者さんの安全第一を先ず考え、玄関の出入りは危険な場合は無理して自力では行わない、入浴は危険なときは無理せずデイサービスでという方針になりがちな私（病院）にとっては、改めて考えさせられました。また、みゆき会病院理学療法士 寺崎氏からは、「地域リハビリテーション活動支援事業」に対するリハビリテーション専門職の関与が少ないことが指摘されました。よりレベルの高い活動支援をするためには、地域のリハビリテーション専門職にもっと参加させるべきとのご指摘でした。最上町立最上病院の高山氏からは、入院中にもっと在宅復帰をイメージした生活に即したりリハビリテーションを、との要望でした。老人保健施設リバーヒル長井言語聴覚士の荒井氏は、地域に数少ない言語聴覚士として、言語治療を行うばかりではなく、「地域ケア会議への積極的な出席」「指導者養成事業」「介護の仕事プロモーション事業」など様々な方面で、八面六臂に駆けずり回って活躍されていました。素晴らしく活性度の高い荒井氏の息の長い更なるご活躍を願っています。酒田市明日葉の今野氏は、病院勤務職員の(恐らく医師も)、介護の場への参加、介護分野への理解を深めることの重要性を強調されていました。「これからの医療（病院）は、病気を治すばかりではなく、地域を支えることにも尽力することが期待されている」という地域包括ケアの基本をご指摘いただきました。鶴岡地区医師会佐藤氏からは、鶴岡地区のITを利用した医療連携システムと、それを支える多くの人、多職種が集まり、顔の見える関係を維持する組織（鶴岡地区医師会 地域医療連携室「ほたる」の紹介）運用の大切さなど、当地区の特色を伝えてくれました。さらに、シンポジウムの司会という大役を見事にこなしてくれました。

本会の全体の印象を申しますと、これからの医療のなかで重要な柱の一つである「地域の医療」を進化、推進に際して、「地域ケア会議」などへのリハビリテーションスタッフの参加を増やし、積極的な関与を促すことが重要と思われまますし、リハビリテーションスタッフもそのことを期待しているように感じました。また、これからの地域の病院は、これまでのような病気を治すだけではなく、様々な手段、形で「地域を支える」ことにも尽力する事が求められています。その為の人員の確保、人の養成、機器の整備などの必要性を、行政および病院運営組織は覚悟し、推進させるべきでしょう。そして、医師は地域医療のリーダーとして期待されているところですが、現状はまだまだ他の職種からは敷居が高く感じられており、忌憚の無い意見交換を行うには更なる医師側の歩み寄りと努力が必要と感じました。その敷居を下げ、現場の率直な意見を聞く為にも、様々な介護、医療の多職種の会への積極的な参加とざっくばらんな意見交換をお願いしたいと思います。

最後に、本会立ち上げから計画推進、当日の運用まで、当院リハスタッフの積極的な協力、支援に心から感謝致します。また、ご協力くださいました医師会、当院事務関係の皆様にも厚く御礼申し上げます。



みずばしょう夏祭り

期日：平成30年7月28日(土)

場所：介護老人保健施設みずばしょう

7月28日(土)、みずばしょうの夏の恒例行事となりました、第14回「夏祭り」を開催しました。今年夏祭りのテーマを人と人との繋がりを大切にしたいという気持ちを込めて「つなぐ」としました。

東北地方は平年より早い梅雨明けとなり、連日気温の高い日が続いていましたが、開催の数日前から台風が発生し、無事に開催できるのか心配されました。夏祭り当日は風の影響を受けたものの、雨に降られることなく開催することができました。とても暑い中、利用者・家族の皆様をはじめ、多くの地域住民の皆様、ボランティアの皆様、医師会の先生方や職員の方々から参加いただきまして誠にありがとうございました。

日中は施設内で縁日を開催し、入居者の皆様、デイケアをご利用の皆様に夏祭り気分を味わっていただきました。夜の部では、管理医師の矢野先生の開会挨拶の後、柏樹会の皆様による優美な手踊りから始まり、新人職員によるタイの伝統的な踊りを披露しました。続いて、矢野先生と土田医師会長の親子デュオによるミニライブでは、土田先生のギターと矢野先生の美声で会場は酔いしれました。その後は、AKIKOフラメンコスタジオの皆様より、夏祭りでは初めてとなるフラメンコを情熱的に踊っていただきました。その勢いそのまま、念珠関辨天太鼓創成会の皆様による勇壮な太鼓演奏が会場に彩りを添えました。夏祭りのフィナーレを飾る打ち上げ花火は、強風による中止も懸念されましたが、盛大に打ち上げることができ、皆様に喜んでいただけたことと思います。

来年も多くの方から参加いただき、皆様が楽しめるような夏祭りを企画したいと思っておりますので、ご支援・ご協力のほどよろしく願いいたします。

最後に、ご協賛をいただきました皆様、お手伝いに来てくださった皆様に改めて御礼を申し上げます。

総務会計課 課長 難波 崇



鶴岡地区医療学術懇話会

日時：平成30年7月30日(月) 19:00~20:30
場所：東京第一ホテル鶴岡 2階 鶴の間

『糖尿病患者の心血管イベントの抑制とは

～どのような患者に何を処方するか～』

東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科
准教授 坂本 昌也 先生

糖尿病患者では、脂質異常症及び高血圧症の合併が多い。そのため、糖尿病患者の脳心血管病死を予防するために、食事・運動療法に加えて、血圧・脂質及び血糖値(HbA1c)を指標にした Treat to target 法が用いられ、一定の成果を挙げてきた。近年では様々な薬剤が開発され治療介入がなされており、死亡率低下への有効性も示されている。

しかし、最近では目標値を設定する治療だけでは、予後改善には限界があることも報告されている。さらに、2018年3月に糖尿病のコントロール指標であるHbA1c値に幅を持たせるべきとする提言がアメリカ内科学会から出され、その直後に同国内・糖尿病学会から合併症増加への懸念を“深く憂慮する”とのコメントが出されるなど、国内外を問わず、目標値設定について議論百出となっている。

生活習慣病の治療目標は個別の年齢、罹患期間、サポート体制などを考慮した、いわゆるテーラーメイド治療が叫ばれて久しいが、各々の病態の把握は難しく、合併症進行のサロゲートマーカーになるものも多くはない。あった場合でも各疾患別に分かれ、検査すべき項目も多くなり、検証が難しいのが現状である。また、血圧コントロール目標値においても血糖値と同様のことが起こっており、欧米の学会治療目標値は度々変更されているが、本邦においても同様の傾向にあるのが現状である。こうしたこと

つとして、我々の研究では、HbA1cのみならず、血圧・脂質・体重に季節間変動があり、検査時期によって各値の達成率は大きく変動することを明らかにしている。近年では体重の季節間及び年間変動も予後に関与している事が報告され、注目すべき事項と考えている。現状の目標値に関する議論はこれら変動に関わるエレメントを考慮する必要があると考えられる。

私達は、“変動のメカニズムの解明”をテーマに挙げている。近年、血糖値変動・血圧値変動・脂質値変動の重要性が注目され始めているが、その定義は明確なものはない。以前は各値の変動は患者側の食生活を含めたライフスタイルによるものであると説明されていたが、近年の血糖及び血圧測定機器の開発により研究が進み、ライフスタイルを考慮しても変動そのものが心血管イベントに影響していることが判明した。我々は、これまで関係が薄いと考えられていた、血糖と血圧の変動が連関していることを見出し、そのメカニズムとして、頸動脈洞及び大動脈起始部に存在する“圧受容器”が大きく関与していることを仮説として基礎及び臨床研究を行っている。

本講演では、糖尿病患者の大血管障害を予防するために、どのような患者に何を処方するか、また圧受容器の観点及び近年、CANVAS PROGRAMでも報告されている、SGLT2阻害薬の有効性についても論じたい。



滝沢 元先生 旭日双光章受章 まことにおめでとうございます

旭日双光章を受章して

この度平成30年春の叙勲に際しまして、旭日双光章の拝受の栄に浴し身に余る光栄に存じております。全く予期せぬことに驚いているところです。

去る5月2日に文翔館での伝達式にて、吉村山形県知事より勲記勲章を頂きました。また、5月10日には妻共々皇居に参内し、天皇陛下に拝謁し陛下より労いのお言葉を頂いたことは誠に名誉なことでありました。

私は昭和41年新潟大学医学部を卒業後、新潟大学附属病院に勤務し、昭和54年荘内病院眼科に赴任し8年間在籍いたしました。その後、現在の本町3丁目に開業し現在に至っております。荘内病院時代は医師会活動には全く携わっておりませんでした。開業後間もなく、鶴岡地区医師会の役員や山形県医師会の代議員に任命され、これまで知らなかった分野の仕事をさせて頂きました。その後、鶴岡地区医師会の副会長として行政の方々との仕事に携わることも多くなり、貴重な経験をさせて頂きました。

この度の受章に関しましては、私自身の実績など微々たるものであります。医師会があってこそ頂いたものであり、医師会の先生方、職員の方々のご協力に心より感謝申し上げます。

まだしばらくは眼科開業を継続したいと思っております。そして医師会の眼底写真読影や眼科学校医を続けることにより医師会や鶴岡市との連携を深め、微力ながら地域医療に貢献したいと考えております。

最後に御列席の皆様方のこれまでのご厚情に深く感謝し挨拶といたします。

本日は誠に有難うございました。

平成30年7月20日

滝沢 元



滝沢元先生 旭日双光章受章祝賀会

日時：平成30年7月20日(金) 19：00～
場所：東京第一ホテル鶴岡 鳳凰の間

滝沢元先生は、平成30年春の叙勲において、鶴岡地区医師会副会長をはじめ種々主要な役職を歴任され、保健・福祉の向上、地域医療の発展など、長年にわたりご尽力された功績が認められ「旭日双光章」を受章されました。

その祝賀会では、当会会員のほか、滝沢先生と公私ともに親交の深い総勢100名の方々からご出席いただき、この度の受章を祝福いたしました。



YBCラジオ「ドクターアドバイスで きょうも元気」ラジオ出演体験記

真島医院 真島 英太

真島医院の真島英太です。医師会からの勧めで先日YBCラジオの『ドクターアドバイスで きょうも元気』に出演させていただきました。テーマは排尿排便障害についてです。私の専門は泌尿器科ですが縁あって実家では大腸肛門科の先生に指導していただいているので排便障害の話もさせていただきました。内容はラジオの方で色々お話しさせていただいたので割愛させていただきますが、ラジオの収録雰囲気について色々述べたいと思います。

私は3年前位に一度ラジオでお話させていただいていますが、その時よりは話す手順だとかしゃべるときの対応とかは慣れてきていて緊張は少なく感じました。ただし以前と比べて感じたのは、ちょっとの間で趣味と呼べるものがだいぶ減ってきたと言うことです。なかなか自分のことを話す内容が決まりづらく、音楽なんかも子供が生まれて大きくなると段々と聴かなくなって、毎日曲をかけるのですが5曲用意するのも何がいいかとあれこれ思案するのに大変でした。たまたま子供がテレビの歌を唄うようになって、何回もその歌を聞くとなんだかその歌が心地よく聞こえて選んでみたり、その時

丁度ワールドカップが開催していたのでそれにかけて昔のワールドカップ曲をかけたりなどしてなんとか一週間を乗りきりました。趣味やそのほかの話などはアナウンサーの方に上手に誘導してもらい色々とお話を決められましたが、少しドタバタとしてしまったせいか悔やまれるのはアナウンサーの方と収録中の写真を撮るのを忘れてしまいました。

今回は医療の話だけではないためラジオ収録では色々自分のプライベートを見つめ直すいいきっかけになったと思います。またこのような機会がありましたらそれまでに趣味を増やしたりもっと上手に話したいと思いますが、音楽なんかももう少し聞いておこうかと思っています。

貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



表 紙

「 月山満月 」

真家 興隆

朝な夕な、名峰月山を身近に見れる鶴岡人は幸せものである。この優雅な山の名は、山頂にある月読命を祭った月山神社に由来すると言う。月読みに因んで、山頂にかかる満月を撮ってみた。よく見ると月の近くに山頂の月山神社や、山小屋が写っている。

(撮影：2018.04.29、午後6時41分、月山道、ななかまど亭より)

編 集 後 記

猛暑の中会員の皆様にはいかがが防暑されてお過ごしでしょうか、涼しく過ごせる方法がありましたら皆様にもお知らせいただきたいと思えます。ここ数年の暑さは聞いたことのない位の気温がニュースで流れておりますし、熱中症の搬送ニュースも多く聞きます。また季節外れの不思議な動きの台風発生もあり、世界の気象状況は今までの経験を越えた様相を呈しているようです。2年後の東京オリンピックはどうなることやら、今から心配です。前回の東京は年間のお天気のうち最も晴れる可能性が高い、10月10日に決められたと聞きます。最近の開催時期はある国のテレビ視聴率が良くなる時期である真夏に決められているとか。4年に一度ですから選手と観客の事を考えて決めて欲しいものです。

さて、今月号でも取り上げられていますが滝沢元先生がこの春の叙勲で旭日双光章を受章されました。誠におめでとうございます。記念祝賀会も先生のお人柄を表し、市内各界より多くの皆さんが参加され和やかに進んだ事を感謝いたします。今後も健康に留意されご活躍されることを願っております。

今年策定されました第7次山形県医療計画は地域医療構想と病床機能報告を踏まえた内容となっております。先日庄内総合支庁にて病床機能調整ワーキングが催されました。他地域では病床機能転換、削減が計画実行されているとの報告がなされました。2025年以降を考えると病床機能のあるべき姿を考え削減も踏まえた再編が必要、とは思いますが実行年については慎重に検討していきたいと思えます。

(三科 武)

編集委員：渡邊秀平・小野俊孝・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>